学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式（小学校用）

県　　名	三　重　県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	三重県鈴鹿市立飯野小学校								
学年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	３	２	２	３	２	２	２	１６	２５
児童数	７５	７３	７７	８１	５８	５７	６	４２７	

Ⅱ　研究の概要

１　研究主題

地域と創りあげる活力あふれる学校づくり
～基礎・基本を身につけ，自ら学ぶ子をめざして～

２　研究内容と方法

（１）　実施学年・・・全学年　　教科・・・国語科，算数科

＊　実施学年及び教科を選択した理由

本校では，昨年４月に全校児童対象に到達度学力調査を実施したところ，国語科では，全校的に「文章を読み取る力」と「言語能力」が劣っており，高学年になるにつれて「漢字を正しく書く力」が劣る傾向が見られた。また，算数科では，「数と計算」の領域が４年生以外は全国平均より劣っていることや，高学年になるにつれて知識・理解の定着に個人差が見られ，学力差が顕著になっていることなどの児童の実態が明らかになってきた。このような児童の実態から到達度学力調査の実施学年を全学年とし，教科は国語科と算数科を選択したのである。

（２）　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 地域と創りあげる活力あふれる学校づくり 本校では，「知と愛をもち，命を大切にして生きる児童」のテーマのもとに，教職員が一丸となって「確かな学力を身につけ，心豊かで，心身共に健康でたくましい児童」の育成に努めている。具体的には，学校を地域社会に開放し，地域との交流を深める中で，地域の人々にボランテイアとして「本の読み聞かせ」や「ゲストテイチャー」として指導頂いたり，環境作りに参加頂くなど教職員，保護者，地域住民が一体となって活力あふれる学校づくりに取り組んでいる。とりわけ，児童の学力向上については，次のサブテーマを設け「知」の教育，いわゆる基礎学力の向上に取り組んでいる。 ―基礎・基本を身につけ自ら学ぶ子をめざしてー 「読み」「書き」「計算」をはじめとする基礎的・基本的事項を確実に習得させることを基に，「知識や技能を活用する」「自ら学び，自ら考える」「表現して他の人に伝える」「常に新しい課題に挑戦し，ねばり強く問題を解決していく」等の力，いわゆる「確かな学力」を身につけた児童の育成をめざしている。 ○　研究の見通し（経過） 年間を通して国語科，算数科を中心に具体的には，１学期は到達度学力調査の実施と分析，研究の方向性の決定と重点化，２学期は，授業を通しての実践研究，３学期は同じく授業を通しての実践研究とまとめ，さらには到達度学力調査や，保護者の意識調査等を実施して次年度の取り組みの方向性の確認と重点化等の作業に取り組んでいる。 ○　研究の内容・方法 １　児童の実態把握（Ｈ１５年４月実施） 国語科，算数科における観点別到達度学力調査（ＣＲＴ）の実施・分析 家庭における基本的生活習慣に関するアンケートの実施・分析 国語科の実態 全校的に「文章を読み取る力」「言語の力」が劣っている。 高学年になるにつれて「漢字を正しく書く力」が劣る。 算数科の実態 「数と計算」の領域が４年生以外は全国平均より劣っている。 高学年になるにつれ学力差が顕著になっている。 家庭における生活実態 夜１０時以降に寝る児童が３８％，朝７時以降に起きる児童が４５％いる。 朝食を食べずに登校する児童が９％いる。 排便ついては，２７％の児童が毎日していない。 家庭での学習移管が３０分以下の児童が７４％いる。 テレビ・テレビゲームに費やす時間が４時間を超える児童が１８％いる。 総じて，生活習慣，生活リズムが崩れている。 ２　基礎・基本を重視し，よくわかる楽しい授業の実現に向けて （１）　少人数教育をめざした指導体制の工夫 県から配当された教員の枠内で，平素の授業では，できうる限り，各学年の学習グ

ループが少人数になるよう工夫すると共に，併せてよりきめ細かな指導を行うためＴ・Ｔや習熟度別のグループ学習を取り入れている。

（２）　国語科の研究内容

「読み」「書き」指導の日常化を図り，それにかかわる学力の定着をめざしている。この取り組みは，国語科における基礎・基本が身に付くことはもとより，「学習意欲と理解力」や，「集中力と粘り強さ」「自信と心の安定」さらには，「困難に挑戦する生き方」にもつながると考えている。

特に，「読み」の指導では，１年から６年まで系統立てた音読カードを作成し，日常の指導に取り入れ，音読の習慣化を図るように努めている。というのは、児童が自分の声を自分の耳で聞き，口や腹筋を使い体全体で学習することで，脳への刺激が大きく学習効果が上がると言われているからである。

また，児童の表現力を高めるため，本校教諭独自の「開発教材」を用いて，ＮＨＫ中学生日記に係わってきた俳優と本校教諭とのジョイント授業も実施している。

「書く」指導では，「漢字の指導」と「文章を書く力をつける指導」に力点をおいている。

新出漢字の指導では，毎日，低学年で３文字，中学年で４文字，高学年で５文字程度を目安とし，「反復練習」「繰り返し指導」に力を入れている。

「文章を書く指導」では，国語科はもとより，生活科，総合的学習等，学校の教育活動全体をとおして「書く作業」をできるだけ多く取り入れるように努めている。

（３）　算数科の研究内容

評価に根ざした指導，いわゆる指導と評価の一体化を目指している。具体的には，到達度学力調査や本校教諭による自作の習熟度確認テストを実施し，児童の実態を明らかにした上で，Ｔ・Ｔや習熟度別学習を取り入れることをはじめ，教材の開発等に力を入れるなど個に応じた指導・支援の工夫に努めている。

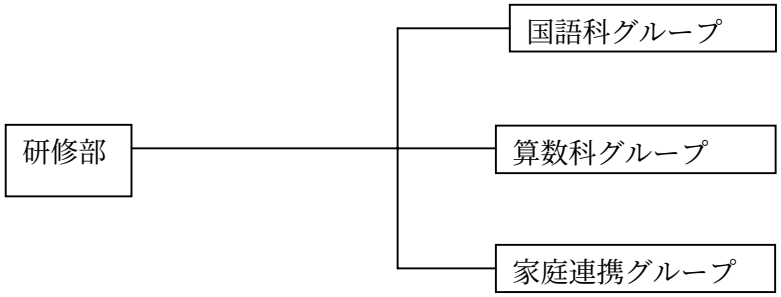
本校の全教員が全校の児童の習熟度を把握するため，チェックシート（習熟状況一覧表）を作成し，全教員が全児童の習熟状況を瞬時に把握できるようにしている。

なお，習熟度確認テストで学習に遅れの見られる児童については，毎週水曜日の１４時３５分から２０分間補充学習の時間を設けて支援を行っている。この学習の運営については，開始時刻にＢＧＭを流し，名前も「ステップ学習」と名づけるなど，児童が穏やかな気持ちで自然に参加しやすい雰囲気の中で実施している。

この取り組みの目的は，学校にいる全ての大人が，学習に遅れがちな児童に真剣に向き合って，人間としての温もりを伝えていくことであると考えている。従って，この時間帯は，学校の他の仕事を全てストップしてもよいという考えに基づき，本校の全ての教職員を総動員して指導に当たっている。

平成16年度	○ テーマ 地域と創りあげる活力あふれる学校づくり ～基礎・基本を身につけ自ら学ぶ子をめざして～ ○ 研究の見通し 本年３月初旬に，国語科，算数科の到達度学力調査を実施する。 ３月下旬までに結果を分析し，１６年度の研究の方針と重点的に取り組む方法と内容について検討する。 同じく，本校の取り組みについて，保護者の意識調査を実施し，保護者の要望等についても配慮しながら取り組みを進めていく。 １５年度の反省，児童の実態，保護者の要望等をふまえ，４月から国語科，算数科の年間指導計画を作成し，さっそく授業実践を中心に基礎学力の向上対策に取り組んで行く予定である。 具体的には，月に一回程度，校内における研究授業を実施し，随時公開していきたい。 夏期休業中には，外部から講師を招聘するなどして，集中的に研究の方法や内容等について検討を加えると共に，各学年の日々の指導案等について話し合うなど，より具体的な研究を進めていきたい。 ２学期には，鈴鹿市内はもとより，広く県内外に情報を発信し，研究大会を開催するなどして，本校の取り組みを公開し，指導を仰ぎたい。 ３学期には，２年間にわたる本校の実践結果についてまとめ，次年度の取り組みについて方向付けをしていきたい。 ○ 研究の内容・方法 基本的には，１５年度のテーマの基に，少人数教育，Ｔ・Ｔ，習熟度別学習等学習形態の面，指導方法の開発・工夫，さらには教材の開発や教育環境等基盤整備の面から研究を進めて行きたいと考えている。 具体的には次の点について努めていきたい。 １　児童の実態を明らかにすること 到達度学力調査の実施，習熟度確認テストの実施 家庭における基本的生活習慣の調査 ２　学校教育目標の確認と共通理解 ３　研究テーマの確認と共通理解 ４　テーマに迫る具体的方策の作成 ５　授業を中心とした実践研究 ６　外部講師を招聘した理論研究 ７　その道の専門家と本校教員のジョイント授業 ８　学習ボランテイアの積極活用

（４）　研究推進体制



全教職員がいずれかのグループに所属するようになっている。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１　研究の成果

○　国語科について

音読の指導・・・毎日続ける中で，自然にしかも確実に力がついている。
１年生から６年生まで系統的な音読カードを使用しているので今後に期待できる。
音読カードでがんばっている児童は，本読みの上達が著しい。
音読カードを使って何度も繰り返し読むことによって暗唱できるようになると児童の自信や喜びにつながり，学ぶ意欲も向上している。
児童に詩を暗唱する喜びを体験させることができた。
集中力，表現力の向上につながっている。
音読の学習を中心に，児童の話す力，表現力が高まると共に，聞く力も伸びてきている。さらに，「話し上手」は「聞き上手」，「聞き上手は心優しき人」というように学級や学校の中に自分の意見をはっきり発言するが，相手の意見を最後まで聞き，相手の考えを受け入れていく，いわゆる児童の中にお互いに相手を認め合う姿勢が見られるようになった。「知」と「愛」の教育の統合という点で大きな成果であると考えている。

漢字の指導・・・新出漢字を教科書の進度と関係なしに繰り返し練習すると，児童は興味をもって取り組むことができた。
ノート指導が定着した。
漢字が苦手な児童にとっても練習方法がわかりやすく，コンスタントに練習ができ，漢字の力が伸びた。教師の方もゆとりをもって指導できた。
毎日，繰り返し４～５文字ずつ，先へ先へと学習していったおかげで，習熟度が増した。
漢字テストに向けても以前に増して意欲的に取り組むようになった。
高学年では作文の中でも漢字がよく使えるようになった。

文章を書く指導・・・国語の授業はもとより，他の教科，日記，各種コメント等で児童の姿を見ていると学年の発達段階に応じて，文章を書く力が伸びてきている。

○　算数科について

習熟度確認テスト・・・習熟度確認テスト，チェックリストの活用は指導と評価を一体化し，個に応じた指導・支援ができて効果的であった。

習熟度別学習・・・・単元終了後，発展学習を習熟度別に取り組んだり，単元の途中で取り入れたりするなど学年の実態によって模索している段階であるが,個に応じたよりきめ細かな指導ができるようになった。わかりやすい，自分のペースで学習できるということで児童にも好評である。

ステップ学習・・・・個に応じたきめ細やかな指導ができた。
各グループは少人数なので，落ち着いて学習できた。
全教職員で取り組んでいることに大きな意義があった。全ての教職員が学習に遅れがちな児童の指導にあたることは，基礎学力をつけるだけでなく，教職員の温もりを伝えることができ，児童との信頼関係を深めることができた。
児童自身が，自分の習熟度を把握することができ，つまずきを克服しようと自覚をもって取り組むことができた。

がんばるタイム・・・百マス計算は，上達が目に見えるので児童の喜びが大きく，学習意欲の向上につながっている。
百マス計算により計算力が速くなり，集中力もついてきている。

２　今後の課題について

○　国語科について

音読の指導・・・個人差があり，漢字の習得が不十分な児童や，保護者に聞いてもらえない児童について今後どのような支援をしていけばよいか検討をしていかなければならない。

漢字の指導・・・１年生では，新出漢字，毎日３文字は困難であった。

その他・・・・・国語科でも，少人数指導やＴ・Ｔによるきめ細かな指導ができればよい。

○　算数科について

習熟度別学習・・・児童が他と比較するのではなく，自己のあり方に目を向け，昨日より今日，今日より明日へとスモールステップをめざす方向で取り組むような指導と配慮が必要である。
常に，保護者にデータや児童の様子を知らせ，理解を求めていく姿勢が不可欠である。

ステップ学習・・・次年度は，月曜日の放課時に位置づけたい。対象外の児童も発展学習に取り組ませるなど，全児童が残って学習に取り組む方がよいと考えている。

○　教員の確保と指導体制づくりについて

少人数教育にしても，Ｔ・Ｔにしても，習熟度別学習の実施にしても，いずれも教職員の人員確保が欠くことのできない必要条件である。こういった事情から，教員配当について要望をしていきたい。ただし，学校としても地域の方々に学習ボランテイアとして参加頂くよう協力要請をしているところである。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取り組み

○　到達度学力調査・・・国語科，算数科,・・・昨年４月
○　家庭における基本的生活習慣に関するアンケート・・・昨年４月
○　算数科における習熟度確認テスト・・・昨年９月
○　本校の取り組みに関する保護者へのアンケート・・・昨年１２月
○　算数科における習熟度確認テスト・・・本年１月
○　到達度学力調査・・・国語科，算数科,・・・本年３月初旬（予定）

Ⅴ　フロンテイアスクールとしての研究成果の普及

○　研究会，説明会等の開催実績及び開催予定

研究会，説明会等の開催実績（指導を受けることを目的として）

３年生，道徳「人権学習」公開授業	１５年　月実施　　本校職員，近隣教員　合計３２名参加
６年生，算数科公開授業	１５年１１月実施　本校職員，共同研究者，県教委指導主事 市教委主事　　合計３６名参加
１年生，国語科公開授業	１５年１２月実施　本校職員，県教委担当者，市教委担当者 マスコミ関係者　合計 30 名参加
４年生，国語科公開授業	１６年１月実施　本校職員，県教委指導主事，北勢教育事務所長、市教委教育委員、市教委教育次長、指導課長、指導主事 マスコミ関係者　保護者　一般市民　合計４０名参加
３年生，算数科公開授業	１６年２月実施　本校職員，県教委指導主事，市教委指導主事 合計３０名参加
障害児学級，算数科公開授業	１６年２月実施　本校職員，県教委指導主事，市教委指導主事 合計３０名参加

研究会，説明会等の開催予定（研究大会を開催し，指導を受ける）

１６年１１月の予定(鈴鹿市教育研究会指定校としての発表会等も兼ねて実施する。
参加人数は広く県内から集まるので,関係者も含めて２００名以上になることが予測される。

その他，次年度については，校内研修での研究授業，講演会等は原則公開とし，フロンテイア校としての使命を果たすよう努めていきたい。

○　研究成果普及のためのＨＰを作成し，全国に情報発進をしている。
○　毎月２回程度，学校だよりを発行し，保護者や地域住民に学校の取り組みや児童の様子を知らせている。
○　学級だより，学年だよりについては，さらにきめ細かに発行している。
○　鈴鹿市の「広報すずか」やインターネットで全国に情報発信がされ，宇都宮市の市議会の教育問題調査特別委員の方々１５名の視察が１月にあった。
○　本校の職員の一人は，市の学力向上対策チームの一員として活動している。
○　また，市の学力調査検討委員に選出されて活動している教員も１名いる。

「新規校・継続校」　　１５年度からの新規校
「学校規模」　　１３学級から１８学級
「指導体制」　　少人数指導，Ｔ・Ｔ，その他習熟度別指導，
「研究教科」　　国語，算数
「指導方法の工夫改善に係わる加配の有無」
　　有る